チェックシート

# 平 成 ル ー フ

# 中 間 検 査

| | |
|---|---|
| 責任施工業者 | |
| 工事名 | |

| 区分 | チェックポイント | 良 | 否 | 改善方法 |
|---|---|---|---|---|
| 材料 | 溝板の厚さは、0.35mm以上で且つ仕様書通りの厚さが使用されているか。 | | | |
| | 溝板は吊り子と一体になっているか。又は溝板と吊り子が別の場合、吊り子は通し吊り子となっているか。 | | | |
| | 下葺材は、アスファルトルーフィング940以上が使用されているか。 | | | |
| 墨出し | 割付け、墨出しは、施工図通りであるか。 | | | |
| 下地の状態及び下葺き | 断熱材の使用は指定してあるか。使用の場合、同等又は同等以上の品質であるか。 | | | |
| | 屋根勾配は、3/100程度以上となっているか。 | | | |
| | 下葺材の重ねは、100 ㎜ 以上で横貼りとなっているか。又、縦貼りの場合は、200mm以上となっているか。 | | | |
| シーリング材 | ハゼのテープは、1mm×8mm以上のものを使用しているか。 | | | |
| 吊子 | 通し吊子(定尺)で連続して取り付けてあるか。 | | | |
| 唐草けらば納め | 唐草、けらばを釘止めとする場合、釘の長さは32mm以上を使用、500mm以内の間隔で取り付けられているか。 | | | |
| | 継ぎ目重ねは、30mm以上となっているか。 | | | |
| | 垂れ下がりは、野地板より10mm以上下がっているか。 | | | |
| 水上端部 | 立上がり部分は、八千代折りを基準とし、水返しを付けてあるか。 | | | |
| 適用 | | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 検査日 | 年　月　日 | 再検査日 | 年　月　日 |

上記項目に従い検査を行ったことを認めます。

年　月　日

株式会社 全日本建築板金保証センター北海道支部長 殿

| 支部長 | 委員長 | | 事務局 |
|---|---|---|---|
| | | | |

検査員氏名

検査員資格番号

チェックシート
# 平成ルーフ

# 完成検査

| | |
|---|---|
| 責任施工業者 | |
| 工事名 | |

| 区分 | チェックポイント | 良 | 否 | 改善方法 |
|---|---|---|---|---|
| 棟納め | 棟包みは、棟板に32mm以上の釘を500mm間隔以内で止めてあるか。(防水テープでも可) | | | |
| | 棟包みは、ハゼ組とする方法で施工してあるか。 | | | |
| 水上部分及び登りの雨押え | 雨押え立上りは120mm以上で、ハゼ組か又は、垂れ下がり部分を溝板まで下げてあるか。 | | | |
| | 水上部分の立上りは、ハゼを倒して120mm以上の立上りとし、水返しを付けてあるか。(防水テープでも可) | | | |
| | 棟納めに準じて止めてあるか。 | | | |
| シーリング材 | 各部分の必要な箇所へのシールは出来ているか。 | | | |
| その他 | 屋根材の表面に傷はないか。又、タッチアップ等の補修がされているか。 | | | |
| | 屋根の上や関係する場所の清掃が行われているか。 | | | |
| 適用 | | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 検査日 | 年　月　日 | 再検査日 | 年　月　日 |

上記項目に従い検査を行ったことを認めます。

年　月　日

株式会社 全日本建築板金保証センター北海道支部長 殿

| 支部長 | 委員長 | | 事務局 |
|---|---|---|---|
| | | | |

検査員氏名

検査員資格番号